

## 肥満に関する治療がメディケア 適用になる見通し

〔USA TODAY, 2004年7月16日号より〕

### <要旨>

肥満は従来、個人の健康管理不足とされていたが、今回、医療問題として認められ、近い将来、肥満治療がメディケア(アメリカの健康保険プログラム)の適用範囲内とされる見通しが7月15日に発表された。「肥満は疾患ではないので保険の適用外である」といわれ続けてから実に40年後のことである。

このニュースは政府のHealth and Human Services (HHS)のトミー・トンプソン氏が米国議会上院で明らかにしたもので、肥満の外科療法、集中的な食事療法や運動療法(外来または入院患者)に適用される予定と発表された。

メディケアは米国政府による健康保険プログラムの一つで、65歳以上の高齢者(65歳以上で身体障害を持つ者も含む)に適用され、4,000万人以上が対象となっている。肥満も適用内とするこの政府の方針変更により、一般保険会社によるプログラムも影響を受けると思われる。

アメリカでは60%以上の人が高体重とされ、そのうち半数(即ち全体の約30%)が肥満といわれている。メディケア加入者でみると、37%が高体重、そのうち半数(全

体の18%)が肥満である。肥満は糖尿病、心疾患、癌などを引き起こし、肥満に関連する疾患で年間30万人が亡くなっているとされる。「肥満に関連する疾患を治療することで財政上、ヘルスケア関連の出費が大幅に増える」トンプソン氏は上院小委員会で述べた。

メディケアの適用マニュアルによると肥満は、従来、疾患とみなされていなかった。また保険の適用範囲は法律により「疾患または外傷に限定」されていた。HHSは现阶段で肥満を「疾患」として適用の対象に決定したわけではない。今後、治療効果が科学的な根拠のもとに証明され、政府のメディケア委員の同意が得られた後、その「治療」が適用になるとしている。即座に適用になるということではない。

このニュースは抗肥満薬の使用を助長するのではなく、人々に「現在の肥満の状況は何らかの医療の助けが必要だ」ということを意味している。

### <コメント>

肥満に関して、医学的、社会的、歴史的に日本とは異なるアメリカにおいても、肥満を病気として扱い、それに対する医療の必要性をとりあげ実践していこうとする姿勢がありありとみられる。この記事を読む限り、日本の肥満に対する取り組みがどれほど進んでいるかが示されているともいえる。このような動きが世界的になり、この難治性の肥満症の治療に、そして予防に医療の力がもっと及んでいくことを望みたい。

## ビデオ「Supersize Me」

〔監督、制作：モーガン・スパーロック  
(The CON), 2004年〕

### <要旨>

このビデオは今年初めにリリースされてから、アメリカ国内で非常に話題になっている。監督、主演のモーガン・スパーロック氏が自ら1カ月間、1日3食をすべてファストフードで過ごし、体調にどのような変化が現れるかを綴ったドキュメンタリービデオである。

スパーロック氏はこの実験を始めるにあたり、3名の医師による検査と指導、1名の栄養士の食事指導を受け、1カ月間フォローを受けながらファストフードを食べ続

け、検査を重ねる。次第に検査値上、変化がみられ、自覚的にも体調の変化を感じるようになる。また、「肥満者の一番多い都市」とされるヒューストンをはじめ数都市を訪れ、一般市民に食についてインタビューし、学校給食の現場を取材、アメリカ国民とファストフードの親密度を追う。一方、CDCなど専門機関発表のデータを示し、アメリカの食生活事情を専門家に聞く場面もある。ホームページアドレス <http://www.supersizeme.com>

### <コメント>

日本食という文化が、いかに健康のためにも大切なものとして位置づけられていたかを感じる。どんなことがあっても、ビデオの実験的食生活のまねをしたり、もてはやされることのないことを祈るばかりである。

(編集部)